



4

第 章

おかがきの、 歴史と文化を 探ろう。

まちの風景のシンボル「三里松原」ができあがるまでの話、
むかし、おかがきまちにあった炭鉱や初めて開通した鉄道、
人物や民話、祭りなど、様々な「まち」のルーツを探ってみよう。

まちの
歴史を発見!



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



江戸時代からあるんだ〜



「三里松原」って自然にできたのかな？

おかがき「まち」を

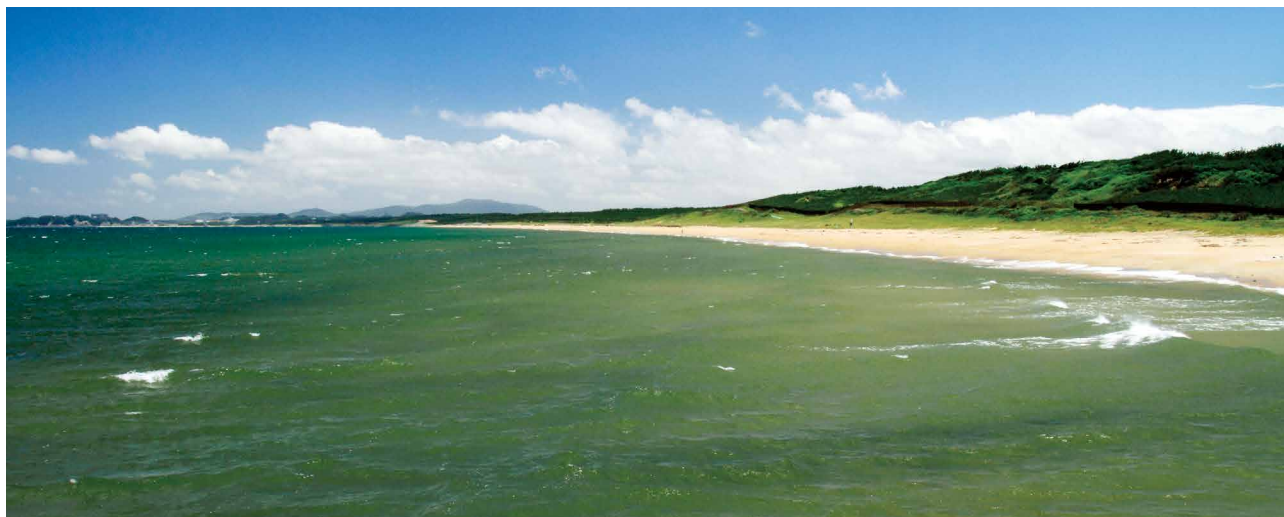
知る



三里松原は、全長約 12km、最大幅約 1.3km、総面積約 430ha のクロマツが中心となる松林で、松の本数は、数百万本とも言われており、県内でもかなり大きな松原です。吉木小学校や岡垣中学校の校歌に「三里松原」という言葉

が使われているほど、町内でも大切にしている自然環境ですが、実は、この松原は自然にできたものではありません。この松は、昔、人の手で植えられました。

江戸時代のころ、芦屋や岡垣などの浜辺に面した村々では、響灘ひびきなだから吹きよせる大風に悩まされていました。また、海からの風のため、田んぼが一晩で砂にうもれて



しまったり、稲や野菜が潮風のせい
いで枯れてしまったりすること
もありました。



小学生による「三里松原の植林」の劇

このため、福岡藩主は防風林・
防砂林として、松の植林を農民に
命じました。三里松原の植林を、
1655年～1680年にかけて行い
ました。しかし、せっかく育った
松は、藩で使うために切ったり、
農民が燃料にしたりして、松原が
少なくなってきました。

ふたたび潮風による害を防がな
ければならなくなった時に、享保
の大飢饉が起きました。遠賀川が
大雨であふれ出し、田畑を荒らし
たり、日照りが続いて作物がとれ
なかつたりして、食べるものがな
くなりました。福岡藩では、10
万人以上の餓死（食べ物を食べな
くて死ぬこと）する人がでました。
そこで、藩内では大がかりな植林
に取り組むことになりました。

1738年4月、福岡藩の命令
が各村に出されました。遠賀郡の
浜辺の村々から人夫が出て、本格
的な松苗の植え立て作業が始まり
ました。

1751年、芦屋から岡垣の手野、
内浦あたりまでの浜松の植え立て
が計画されました。植え立ての面

三里松原の植林の歴史年表

- 1602年 黒田長政が海浜の植林を奨励する
- 1655年 三里松原の植林が村々で始まる
- 1738年 浜山証文藩の命令で植林を行うことが始まり、浜松の伐採を禁止する
- 1751年 芦屋から手野・内浦辺りまでの砂山71万7千坪に、7年間に松の植え立てを申しつけられる
- 1752年 浜山松植え立てが始まり
- 1754年 芦屋浜山植立奉行が糠塚、黒山、松原、芦屋の4つの村に植林を命じる
- 1760年 植えつかない松の補植に年間2300人が働く
- 1893年 松原を通り、芦屋に通じる浜山道路工事に着手する
- 1897年 三里松原を国有林に編入、防風保安林となる
- 1987年 三里松原、全国白砂青松百選に選ばれる



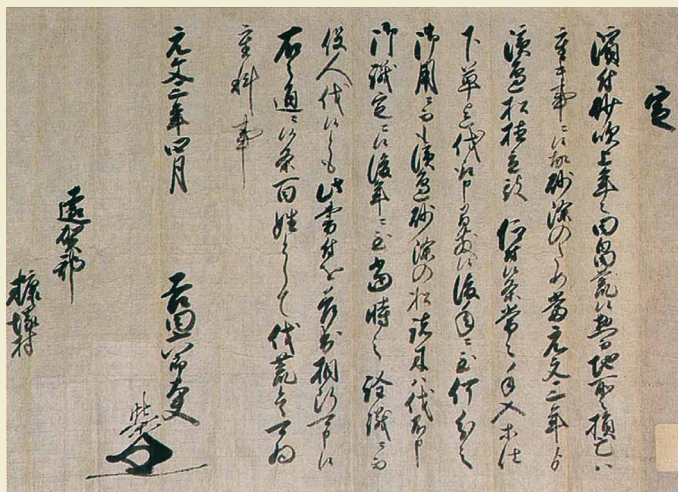
積は、71万7,057坪^{つぼ}（2.37km²）で、福岡ドームの約34個分です。それを芦屋、糠塚、黒山、松原の4つの村が受け持ち区域を担当して、松を植え立てることになりました。1752年から作業を始めて、1758年までに植え立ては終わりました。一坪（畳2枚分）に松苗を1本ずつ植える作業で、遠くから取りよせる松苗の費用は、4つの村でまかないました。しかし、潮風が強いため、植えつかない松苗も多くあったことから、福岡藩は、1760年から1年にわたって地元の農民2,300人に、苗がよく育つようさらに根芝^{ねしば}を植

えさせました。

松を植えても、松苗が砂にうもれたり、枯れたりすることがあったので、いつも見回って手で砂をのけたり、苗を植え直したりしなければなりませんでした。三里松原の松の植え立て作業は、23年間も続きました。その後も、松苗の作業がいろいろありました。農民たちにとっては大変つらい作業でしたが、少しでも暮らしが良くなればという気持ちでがんばり続けました。

松原を守るために、福岡藩の家老^{よしだろくろうだゆう}吉田六郎太夫は、「後年いかなる事情があっても松を切ってはな

福岡藩の藩主の法令 浜山証文^{しょうもん}



「かつては、砂を防ぐ松などがあったのに切られてしまい、砂で田畑がうまってしまうことが多くなった。元文3年から松の植林を行う。いつも松の手入れをして松を切らないようにすること。後になって、役人が切るようなことがあるとこの証文を見せてことわること。松を切ると重いばつをあたえる。」という意味のことが書いてあります。

らない。切ったら重罰に処す。』
という書付を出しました。

三里松原は、そこに住む多くの
人々の手によって育てられ、現在
でも、人々の生活を守り続けてい
る大切な自然環境なのです。

現在は、松食い虫による被害や
広葉樹の侵入などで、松の生育環

境が悪化しています。それを防ぐ
ために、岡垣町役場やボランティ
ア活動をする住民が立ち上がり取
り組みを続けています。



語句の解説

大飢饉：悪天候や病害虫のため、作物がとれなくて食べ
ものがなくなることです。



三里松原での松葉かきの様子



植林した松の様子

おかがき「まち」を

見る・調べる

- 三里松原を守るために、どんな取り組みをしているか、役場や地域の人たちに聞いてみよう。

おかがき「まち」を

まとめる

- 三里松原を守るために、昔の人たちはどんな苦勞をしたかまとめてみよう
- 三里松原は、岡垣町の人々の生活を守る大切な財産である理由をまとめてみよう。
- 三里松原をこれからも守るために、わたしたちに何ができるか話し合ってみよう。

昔、岡垣町に炭鉱があったのかな？

炭鉱って知ってる？



おかがき「まち」を

知る

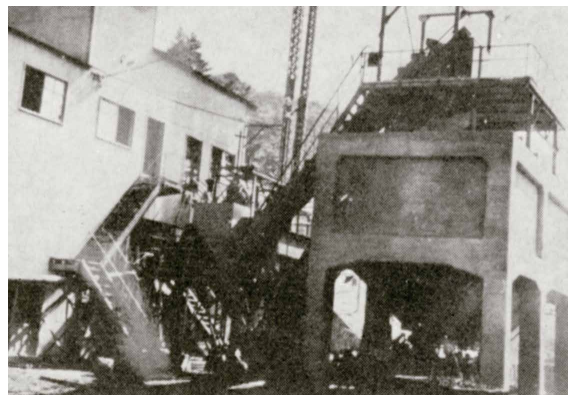


日本は、明治から1955年（昭和30年）ごろまで石炭をエネルギー資源の中心としていました。石炭とは、樹木が化石化したもので、火力発電や製鉄の燃料として利用されていました。

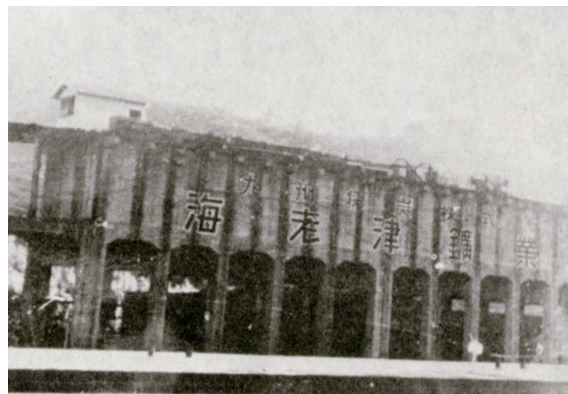
岡垣町でも、戸切から海老津（海老津炭鉱）、野間から山田（高陽炭鉱）を中心とした地域で石炭が豊富にとれ、炭鉱がいくつもありました。

1912年（大正元年）に開鉱した岡垣町の中でも最も安定した海老津炭鉱は、第1次世界大戦によって本格的に活動を開始しました。大正には、1,200人以上の

従業員が働き、百合野から海老津駅まで、掘り出した石炭はトロッコ（エンドレス）で運ばれました。そのため、多くの石炭がとれるようになりました。

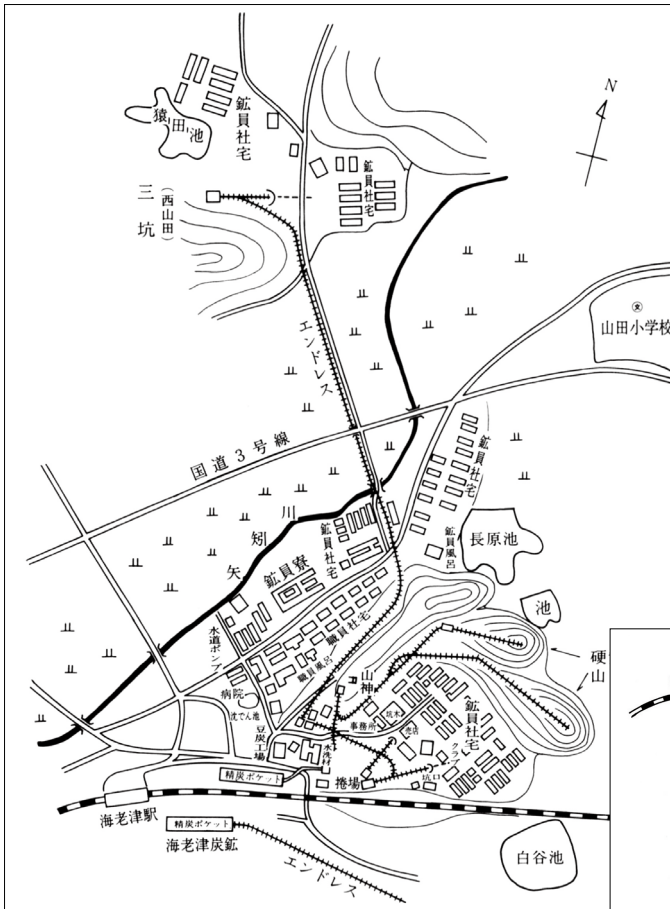


海老津炭鉱（石炭を選別する場所）



海老津炭鉱（海老津駅にあった石炭の積み込み場所）

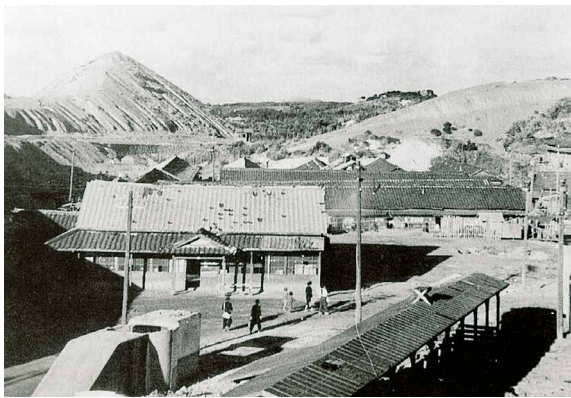
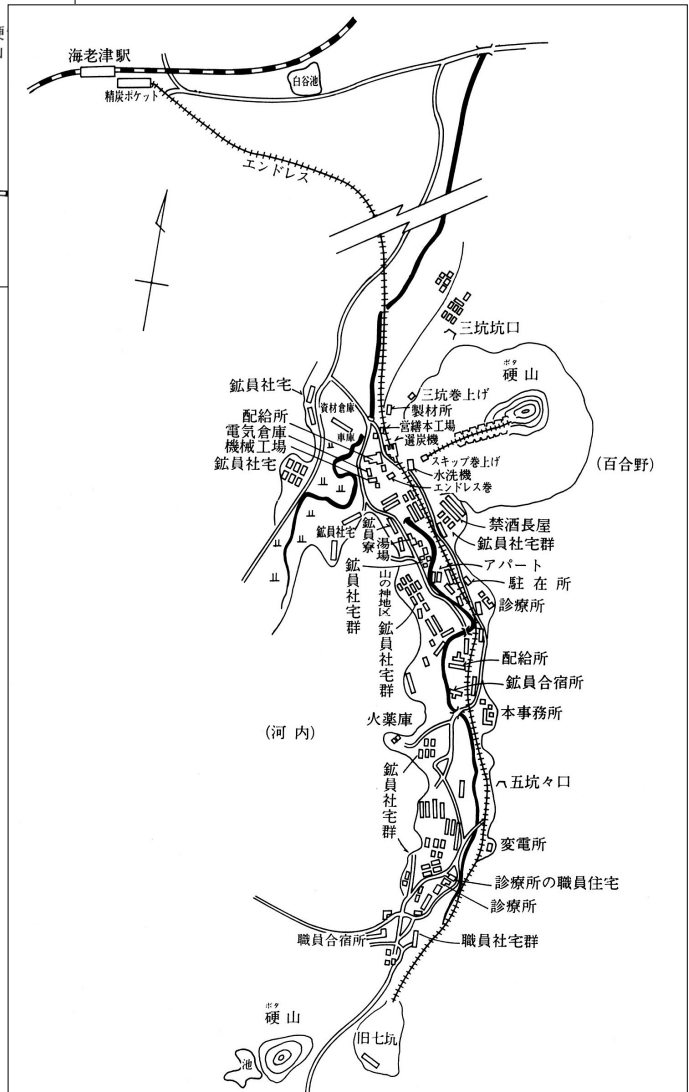
高陽炭鉱の分布図



みつけたぞ〜!



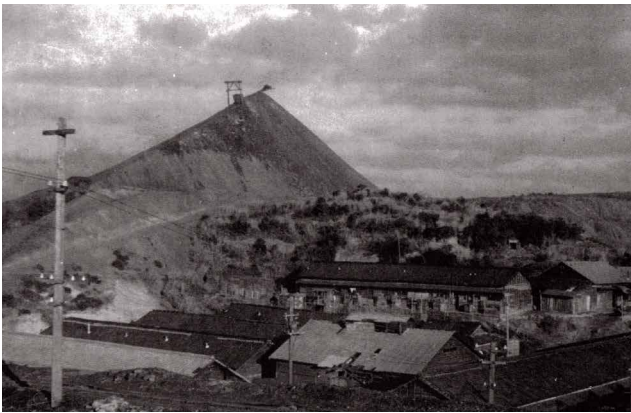
海老津炭鉱の分布図



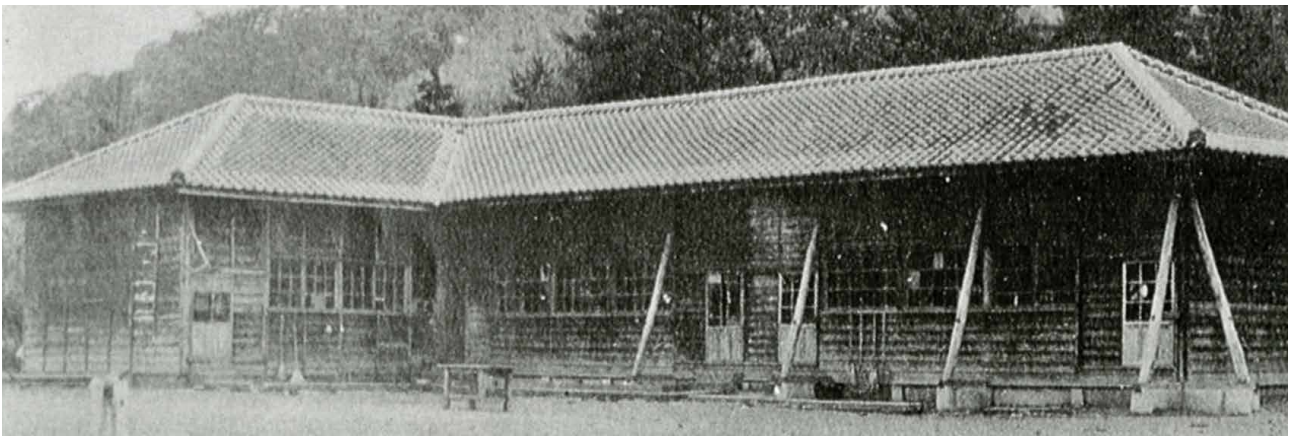
高陽炭鉱

最盛期の1928年（昭和3年）には、1,327人の従業員数で14万1,700tもの石炭を掘り出しました。1923年（大正12年）、戸切小学校は、この海老津炭鉱で働く人の子どもたちのために、海老津炭鉱を経営している会社によって、私立学校として百合野に開校されました。

その後、エネルギー資源が石炭から石油に移ったことで、炭鉱が閉山していきました。岡垣町の炭鉱も、1961年（昭和36年）に全て閉山しました。この時、炭鉱で働いていた人たちが、町外へと出て行ったため、岡垣町の人口は約2,000人減りました。

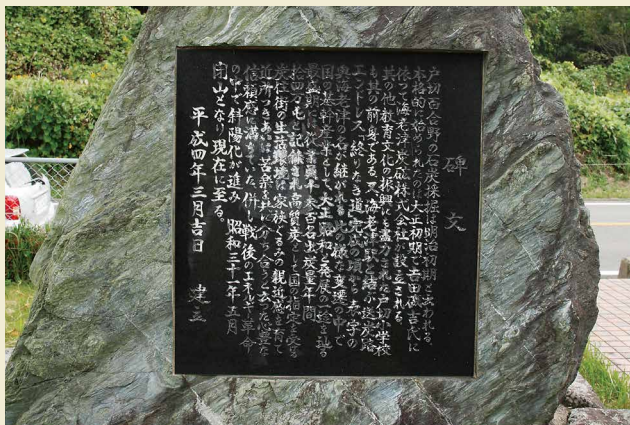


高陽炭鉱



昭和28年までの戸切小学校

石碑



戸切百合野の海老津炭鉱の会社が戸切小学校を建てたことや、海老津駅と炭鉱を結ぶエンドレス（送炭路）について書いてあります。この石碑は、百合野地区集会所の隣の公園に建てられています。エンドレスが通っていた道は一部ですが、今でもまっすぐのまま農道として残っています。また、龍王団地の山手に残っているエンドレスだった道は、トロッコ道という名前で今でも親しまれています。

おかがき「まち」を

見る・調べる



□炭鉱があった場所は、岡垣町のどこか地図で調べたり、地域の人に聞いたりしてみよう。炭鉱があった場所は、今どんな様子か見に行ってみよう。



現在の「トロッコ道」



戸切百合野のボタ山

おかがき「まち」を

まとめる



□岡垣町には昔多くの炭鉱があり、栄えていましたが、炭鉱が閉山していった理由や時期について、地域の人に聞いてまとめてみよう。

岡垣町の交通は、どのように発展したのかな？

おかがき「まち」を

知る

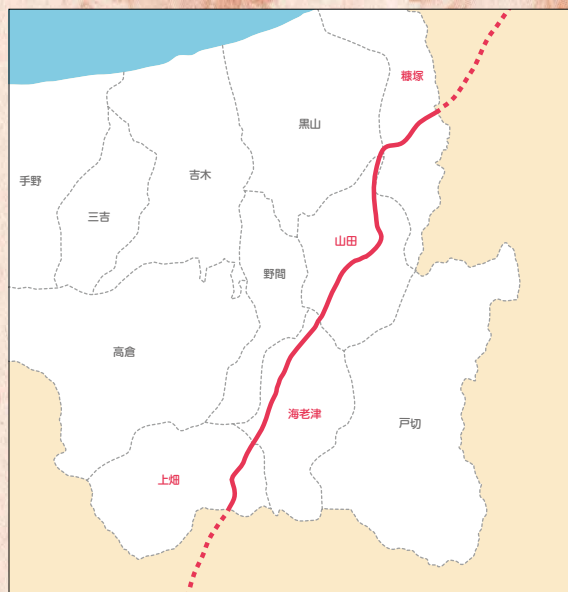


かいどう
街道から道路へ

江戸時代、**参勤交代**（1635年）が始まると、全国各地の街道が整備されました。岡垣町には、唐津街道という昔の道路が通っていました。赤間宿から上畑村、海老津村、山田村、糠塚村を通り遠賀町の尾崎村へつながっていました。

現在の「母の家」の前の旧国道3号から海老津駅下を通り、東部公民館横、山田小学校の西側を過ぎ、矢矧川沿いを北に抜けて糠塚に入り、芦屋方面につながっていました。その後、乗り物の発達によって道路は少しずつ広げられました。

1910年（明治43年）の海老津駅開設や1924年（大正13年）の遠賀川橋の設置によって、1928年（昭和3年）に海老津・折尾間道路（旧国道3号）が完成しました。それによって交通の便が良くなり、海老津駅前を中心とした道路が整備され、馬車からトラックやバス、自家用車に交通



唐津街道

手段が発展しました。

1965年(昭和40年)を過ぎると自家用車の増加によって道路を広げたり、町内の道路を新しく作ったりして、さらに車中心の交通整備が進みました。2005年(平成17年)から路線バス以外に、コミュニティバスが運行され、2017年(平成29年)には、一部地域で集合タクシーの運行が始まり、住民の

重要な移動手段となっています。



語句の解説

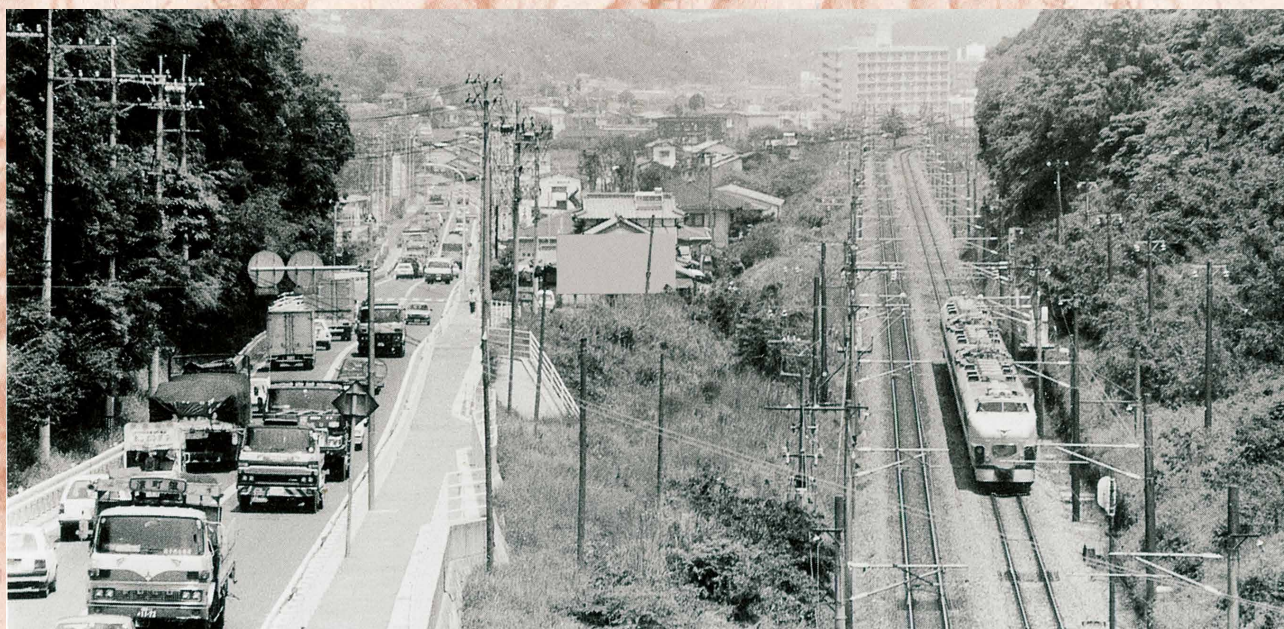
参勤交代：江戸幕府が大名統制のため、諸大名を一定期間、江戸に住ませた制度です。



町内初の信号機／「ふるさと岡垣」



国道を走る西鉄バス／「ふるさと岡垣」



城山付近の鹿児島本線と国道3号／「ふるさと岡垣」

鉄道の発達

明治時代、海老津駅がまだなかったころ、人びとは、上りは遠賀川駅、下りは赤間駅まで歩いて行き、そこから列車に乗車していました。



海老津駅に入ってくる列車

赤間駅と遠賀川駅の間を列車が走り出したのは、1890年（明治23年）でした。そのころは、蒸気機関車^{じょうきかんしゃ}が石炭を燃やして煙を吐きながら走り、城山峠を越えていました。

海老津駅は、城山トンネルが開通した後、地域住民の強い要望によって1910年（明治43年）2月6日に開業しました。開業当時は、利用客が少なく、一日4人の利用客がなければ、駅が廃止されるということで、役場の職員に運賃をあたえて遠賀川駅や赤間駅

まで乗車させました。

その後、桜が植えられ、春になると海老津駅前の道は、桜の花のトンネルとなりました。

1988年（昭和63年）には、現在の駅前広場が完成し、海老津駅での乗降客の増加により、2003年（平成15年）から早朝や夕方以降の時間帯に快速電車が停まるようになりました。

また、2004年（平成16年）からは昼間の時間帯に準快速電車が停まるようになりました。



昔の海老津駅前の桜並木



旧国鉄海老津駅

岡垣町の交通の発達

1635年(寛永12年)	赤間宿と芦屋宿を結ぶ唐津街道が通っていた。
1813年(文化10年)	伊能忠敬が上畑、海老津、山田、糠塚の唐津街道沿いを測量
1890年(明治23年)	九州鉄道 遠賀川・博多間が開通
1891年(明治24年)	遠賀川・黒崎間が開通
1896年(明治29年)	芦屋新道 什王堂・芦屋間が開通
1910年(明治43年)	海老津駅が開業
1911年(明治44年)	海老津駅から原までの郡道が開通
1923年(大正12年)	海老津・波津間で客馬車が開通
1924年(大正13年)	国道3号遠賀川橋が完成
1928年(昭和3年)	俵口バス6人乗り自動車(海老津駅・鐘崎間)を運行 国道3号 折尾・海老津間が開通
1930年(昭和5年)	門司・博多間バスが運行開始
1932年(昭和7年)	岡垣タクシーが吉木で開業
1933年(昭和8年)	国道3号城山峠が開通
1934年(昭和9年)	岡垣トラックが吉木で開業
1952年(昭和27年)	海老津・波津間を西鉄バスが運行開始
1959年(昭和34年)	海老津・糠塚間を定期バスが運行開始
1961年(昭和36年)	鹿児島本線門司・久留米間が運転開始
1962年(昭和37年)	国道3号新海老津十字路に信号機を設置
1978年(昭和53年)	国道3号岡垣バイパス工事を着工
1990年(平成2年)	国道3号岡垣バイパスが完成 けやき通りが開通(県道288号)
2005年(平成17年)	コミュニティバスの運行開始
2016年(平成28年)	町道 海老津・白谷線が開通
2017年(平成29年)	乗合タクシーの運行開始
2018年(平成30年)	国道3号 岡垣バイパス4車線化工事に着手



おかがき「まち」を

見る・調べる

上の年表を見て、いつどんな乗り物が使われるようになったかを調べてみよう。

おかがき「まち」を

まとめる

- 道路や乗り物の発達の様子をまとめてみよう。
- 交通の発達によって、人びとの生活はどのように変わってきたか話し合ってみよう。

岡垣町のために尽くした人は、 どんな人がいるのかな？

おかがき「まち」を

知る



まちの人物史

岡垣町には、長い時間をかけて作られて来た歴史や文化が今も残っています。あなたも、その歴史を引き継ぐ一人です。それぞれの時代で活躍した人びとがやりとげた仕事や、土地に伝わる民話、祭りなど、岡垣町に残る歴史や文化を学んで、もっと深く私たちの岡垣町を知りましょう。

岡城三代目城主、麻生隆守 (?～1587?)

岡垣町に昔、岡城おかじょうというお城がありました。

1467年に京都で応仁おうにんの乱らんが起



岡城址

こり、日本が戦国の世へと進んでいったちょうどそのころ、北九州から遠賀川流域で勢力を持っていたのが麻生氏です。その一族麻生いへのぶ家延おさが岡垣一帯を治め、そして岡城を建てました（1469～87年ころ）。その三代目城主が、麻生隆守（麻生氏最後の城主）でした。しかし、岡城を攻められた隆

守は内浦の海蔵寺^{かいぞうじ}まではなんとか逃れましたが、妻子とともにそこで自害^{じがい}しました(落城については1562年以降とされる)。隆守の霊^{くよう}を供養するために、その後岡城のふもとに建てられたのが隆守院^{りゅうしゅいん}です。

龍昌寺を再興した、井上周防^{さいこう いのうえ すおう} (1554 ~ 1634)

麻生家延の兄弘繁^{ひろしげ}が1491年龍昌寺^{りゅうしょうじ}を創立しましたが、岡城が落城したことによって龍昌寺も衰退^{すいたい}していきました。

その龍昌寺を再興したのが、井上周防^{いの上 周防}です。筑前福岡藩初代藩主の黒田長政^{くろだながまさ}によって御牧郡^{みまき}(今の遠賀郡)を与えられた井上周防



井上周防の肖像画

は、静かな雰^{ふん}囲^い気があるこの龍昌寺をこよなく愛し、1617年に再興しました。

吉木には岡城の跡があり、今では景色のいい場所として町民から愛されています。また、海蔵寺、隆守院、龍昌寺は今でもあり、多くの人々が訪れています。

「高倉びわ」の生みの親、大村永荘^{おおむらえいそう} (1876 ~ 1957)

また、岡垣に尽くした人物の中には、苦労を重ねひとつの伝統を作り上げた人もいます。福岡一の生産量を誇る「高倉びわ」の生みの親である大村永荘も、その一人です。永荘は1901年(明治34年)年に、品質優秀な長崎県茂木町^{もぎまち}で作られるビワを調べに行きました。そして、岡垣町の自然条件が果実栽培に適していることがわかり、茂木種^{しゅ}のビワの種を持ち帰り、栽培を始めました。しかし、苗木の完全な育成には至らず、2年後の1903年(明治36年)に、今度は千葉県から田中種^{しゅ}の苗木20本を持ち帰りました。品質優秀な



大村永荘とビワ

ものは3本しかありませんでしたが、栽培に成功し、この苗をもとに、苗木の育成に努めました。

永荘は山林を切り開き、ビワを植え付けました。また、苗を地域の人たちに分け与え、栽培面積を広げていきました。その後、高倉園芸組合を創設して組合長になり、「高倉びわ」の名声を広めるなど、大きな功績を残しました。

波津漁港の防波堤を整備した、 中村信茂 (1890 ~ 1970)

岡垣町の発展のために尽くした一人に、**中村信茂**がいます。

中村信茂は、波津の漁業を発展させたいという夢を持っていました。しかし、波津の沖合は波風を

防ぐ島もなくとても危険でした。そこで、まずは漁港の整備をすることとし、波津の海岸に防波堤を作る計画を立てました。

もともと江戸時代から小さな防波堤はありましたが、漁港整備のため防波堤を広げることにしました。1933年(昭和8年)に始まった第一防波堤の工事は、失業対策事業にもなっており、地域の人々の生活を支えました。防波堤は1938年(昭和13年)に完成しましたが、1951年(昭和26年)の台風でこわれました。その次の年に、再び工事が始まりました。その後、台風などの困難をいくつも乗り越え、1955年(昭和30年)7月に完成。これにより沖合への出漁もできるようになり、中村信茂の夢は実現しました。



波津漁港に完成した防波堤／「ふるさと岡垣」

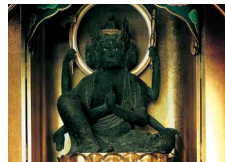
見る・調べる



□①～⑤の場所を地図中に○をつけてみよう。



① 岡城址



② 海蔵寺



③ 隆守院



④ 龍昌寺



⑤ 波津防波堤

まとめる



□次の人物に関連の深い言葉を、下記の項目からみつけよう。

ア 麻生隆守 イ 井上周防 ウ 大村永荘 エ 中村信茂

- | | | |
|--------|---------|-----------|
| ① 高倉びわ | ② 岡城城主 | ③ 漁業の発展 |
| ④ 海蔵寺 | ⑤ 防波堤工事 | ⑥ 茂木種・田中種 |
| ⑦ 隆守院 | ⑧ 龍昌寺 | ⑨ 失業対策事業 |

□岡垣町に尽くした人は、他にどんな人がいたのかまとめてみよう。





岡垣町にはどんな民話が残っているのかな？

おかがき「まち」を

知る



まちに伝わる民話

みなさんは、岡垣町に「カッパ伝説」があることを知っていますか？

岡垣町には語り継がれ、守られてきた、たくさんの民話が残っています。様々な民話を読んでみると、地名の由来や昔の生活のようすがよくわかります。

岡垣町の民話より

たるみ峠のカッパ

むかしむかし、村のたるみ峠というところで、一人の若者が見知らぬ老人から、大きな樽と手紙をあずかりました。何が入っているのかと、若者がこっそり樽の中をのぞいてみると、何とそこには…。



えんまさまになった嘉一郎

地獄に落ちてしまった嘉一郎。いよいよ、えんまさまから裁きを受けることになりました。ところが、あれあれあれっ？嘉一郎がえんまさまになってしまいました。一体、何が起こったのでしょうか？

詳しいお話は、資料編 (P134 ~ 142) を見てみましょう。

これ以外にも「やはぎがわ矢矧川と弓の矢」、「ちたるがわ乳垂川」、「かみなり雷の好きなヘソ」など、昔から岡垣町に伝えられるお話を紹介しています。

岡垣町の民話マップ



- | | |
|----------------|----------------|
| ① えんまさまになった嘉一郎 | ⑦ ひれん二体地蔵ものがたり |
| ② 高倉さんとコブの源助 | ⑧ 善財坊とそば粉 |
| ③ 矢矧川と弓の矢 | ⑨ 摺墨と権じい |
| ④ 庄助ばなし | ⑩ 道満さま |
| ⑤ 源五郎ぶな | ⑪ 雷の好きなヘソ |
| ⑥ 垂水峠のカップ | ⑫ 乳垂川 |

おかがき「まち」を

見る・調べる

民話に書かれている場所や関連がある場所を、上の地図で確かめてみよう。

おかがき「まち」を

まとめる

民話を通して、地名の由来についてまとめてみよう。【参考】「岡垣町伝承民話集むかしばなし」などの資料はサンリーアイや学校の図書室にもあります。

祭りだ～
わっしょい!



岡垣町には、どんな祭りや踊りがあるのかな?

おかがき「まち」を

知る



おかがきの祭り

伝統として引き継がれているものの一つに、祭りや踊りなどがあります。それらはどのようにして始まり、現在に至ったのでしょうか。中には時代の流れの中で姿を変えていったものや、逆に町おこしのために新しく生まれたものもあります。

昔からの祭り

高倉神社大祭「おくんち」

おくんちは、旧遠賀郡 21ヶ村の総社である高倉神社で、毎年10月上旬に行われる秋の大祭の



高倉神社大祭「おくんち」

ことです。おくんちは、海の幸や山の幸がたくさんとれることに感謝し、お祝いする祭りです。高倉神社では神事が行われるほか、踊りが踊られたり、相撲・弓道・剣道大会などが奉納されたりします。

東黒山の山笠

岡垣町で唯一残る山笠です。江戸時代に疫病が流行したので、



東黒山の山笠

「流行病でたとえ家が三軒になっても山笠を出し、祭りを絶やさない。」と願をかけたところ、疫病が収まったといわれます。それ以来、毎年欠かさず山笠を出しています。山笠は花山、旗山、台山の三種類があって年によって飾り方を変えています。毎年7月中旬に、勇ましい法被姿の男たちが、2tあまりもの山笠を担ぎ、矢矧川で「お汐いとり」を行った後、約3kmの道のりを練り歩き、厳島神社へ帰ります。

姿を変えていく祭り

熊野神社のみこし

吉木の熊野神社には、五穀豊

穰を願う祭りが残っています。神様に稲のでき具合を見てもらうために、みこしが吉木区内を回ります。その時、みこしの後ろに大みこし、その後ろに、三味線や太鼓を演奏する人が乗る花車がついて回っていました。

時代とともに大みこしは、子どもが引く山笠へと姿を変えていきます。山笠には、歌舞伎や相撲などをテーマにした手作りの人形が飾られました。しかし、人形を作る人や楽器を演奏する人など、山笠、花車を受け継ぐ人が少なくなったため、今では先頭を行っていたみこしだけが残っています。



熊野神社のみこし

新しい祭り

まつり岡垣と子どもみこし

まつり岡垣は1991年(平成3年)に「まつり岡垣&商工祭」として始まりました。町民の交流と町の発展を願い、様々な団体が参加しています。パレードや演奏・演芸をはじめ、各小学校区からは子どもみこしが出されます。

まつり岡垣に参加することで、様々な人との出会いを通じて岡垣町を愛する心を育て、いつまでもこの岡垣町に住み続けてほしいという願いが込められています。会場の岡垣サンリーアイには、毎年多くの人たちが集まります。



まつり岡垣の子どもみこし

えびつかぐや灯籠まつり^{とうろう}

えびつかぐや灯籠まつりは、2006年(平成18年)に海老津駅前周辺の商店街の活性化と、町に元気があふれるような地域おこしを目的として始まりました。歌や演奏などのイベントと共に、矢矧川沿いに小学生をはじめ町内の多くの人たちが作った灯籠が飾られ、夏の夜を彩^{いろど}っています。

祭りにぎわいと、美しく幻想^{げんそう}的な風景^{てき}をいつまでも心に刻^{きざ}むことで、岡垣町に愛着^{あいちやく}を持ち、豊かな自然と文化を将来につないでほしいという願いも込められています。



えびつかぐや灯籠まつり

町の踊り、町の歌

岡垣音頭

1982年（昭和57年）、岡垣町町制20周年を記念して、町民の調和と協調、そして今後の発展を願い、盆踊りやイベントの時に、町民みんなが気軽に踊れる音頭として制作されました。今でも盆踊りや小学校の運動会の中で踊り継がれています。



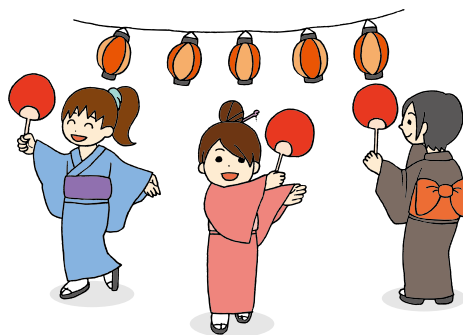
思案橋踊り

波津の口説くどき

口説とは物語という意味で、盆踊り歌として用いられることが多いようです。また、ひとつの物語を踊りで表現するので、長い時間踊り続けることになります。盆踊りでは、町内で主に東部では「思案橋しあんぼし」が、西部ではこの「口説」が踊られることが多いようです。その中でも波津の口説が有名です。

吉木思案橋

岡垣町の無形民俗文化財に指定されている盆踊りです。岡垣町にいつ伝わったかははっきりとはわかっていません。歌と踊りが伝承され、吉木地区では、歌い手や楽器を中心にやぐらの周りに輪を作り、うちわを持って踊ります。歌は20番まであり、その中から9つを選んで踊ります。



変わらない岡垣^{ふるさと}

町制 40 周年を記念して制作された、岡垣町のイメージソングです。この歌は、“まっすぐに未来を見つめたまちづくり”を目指して、みんなで岡垣町を愛し、子ども

もから大人まで気軽に楽しく歌える歌として作られました。

歌詞は一般公募^{こうぼ}され、岡垣町に対する思いがたくさんつまった全 58 作品の中から選ばれました。

変わらない岡垣^{ふるさと}

作詞：瀬戸信二郎 作曲：森山良子 編曲：谷康一

覚えていますか あの夏の午後 三里の浜で うたた寝をした
松林の風 やさしくゆれて 青く高い空に 夢を描いた

波津の花火の 大輪見上げて 君と歩いた 夏の日の夜
何もかもすべて輝いて見えた 今も忘れない 青い季節よ

フルーツ街道 真っ直ぐ抜けて 矢矧の川越え 右へ曲がる
チョコレート色の家が あの頃の僕の あの頃の僕の家

覚えていますか あの春の日を 三里の浜を 君と見つめた
水平線が 眩しくゆれて 蒼く深い海に 心浮かべた

校庭の桜 咲き誇る下で まっすぐに見つめた 未来への道
何もかもすべて輝いて見えた 今も忘れない 青い季節よ

ゆうれい坂から 岡城過ぎて 高倉ビワの木見える丘の
積み木みたいな家が あの頃の君の あの頃の君の家

時代は変わる町も人も 流れ行く季節の中
だけどいつもこのところに 変わらない岡垣
変わらない岡垣 変わらない岡垣



見る・調べる



次に紹介した祭りの時期を、調べてみよう。

祭り	時期	場所
高倉神社大祭「おくんち」		高倉神社
東黒山の山笠		東黒山地区
熊野神社のみこし		吉木地区
まつり岡垣		岡垣サンリーアイ
えびつかぐや灯籠まつり		海老津駅前周辺

まとめる



新しく作られたまちの祭りや音頭、テーマソングには、どんな願いが込められていたかまとめてみよう。

まつり岡垣	
えびつかぐや灯籠まつり	
岡垣音頭	
ふるさと 変わらない岡垣	